

令和元年度（2019）

ドイツ・ヴォルフラーツハウゼン市

青少年異文化体験訪問団（第12期）派遣事業

報告書



プレーツェル作り

入間市・入間市国際交流協会

令和元年8月1日（木）～8月9日（金）

事業のねらい

青少年がホームステイや相互交流を通して、異なった文化や習慣を体験し理解するとともにお互いを認め合う心を育むこと、加えて、本市とヴォルフラーツハウゼン市の友好関係の発展に寄与することを目的に実施します。併せて国際交流活動をはじめとする地域活動に積極的に参加する人材を育成することを目的とします。

ヴォルフラーツハウゼン市とのあゆみ

【姉妹都市提携年月日】 1987(昭和 62)年 10 月 14 日

【人口】 約 18,500 人

【面積】 8.74km²(豊岡地区程度)

【地理】 ミュンヘンの南約 30km・標高約 600m

【産業】 軽工業・手工業・日本へも輸出をしているシール(器を密封する)工場があります。また、牧畜も盛んです。

【観光】 筏^{いかだ}下り・自然美・キャンプ場など各種スポーツ施設

【経緯】

入間市は、市制施行 20 周年記念事業の一環として、海外の都市との姉妹都市提携を検討していました。

そこで候補として挙げられたのが、市内にあった武蔵野音楽大学と縁のあるヴォルフラーツハウゼン市でした。両市は東アジアと西欧とに遠く離れて位置しており、人口もヴォルフラーツハウゼン市は入間市の 8 分の 1 程度と大きな差がありました。しかし、共に東京とミュンヘンという大都市の近郊都市であり、共に市内に河川が流れ、共に音楽ホールを有するなど共通点も多く、姉妹都市提携を妨げるものはありませんでした。また、同市は当市の目指す「香り豊かな緑の文化都市」のイメージに相応しい都市でした。

そして、昭和 62 年 10 月 14 日に姉妹都市提携が行なわれました。

その後、青少年異文化体験訪問団、市制施行周年式典、入間万燈まつりをはじめとする各種行事へ訪問団などが相互に派遣しています。

平成 29 年には姉妹都市提携 30 周年を迎え、両市の交流が夜空に輝く小惑星 Wolfratshausen のように絶えることなく永遠に輝き続けることを願っています。

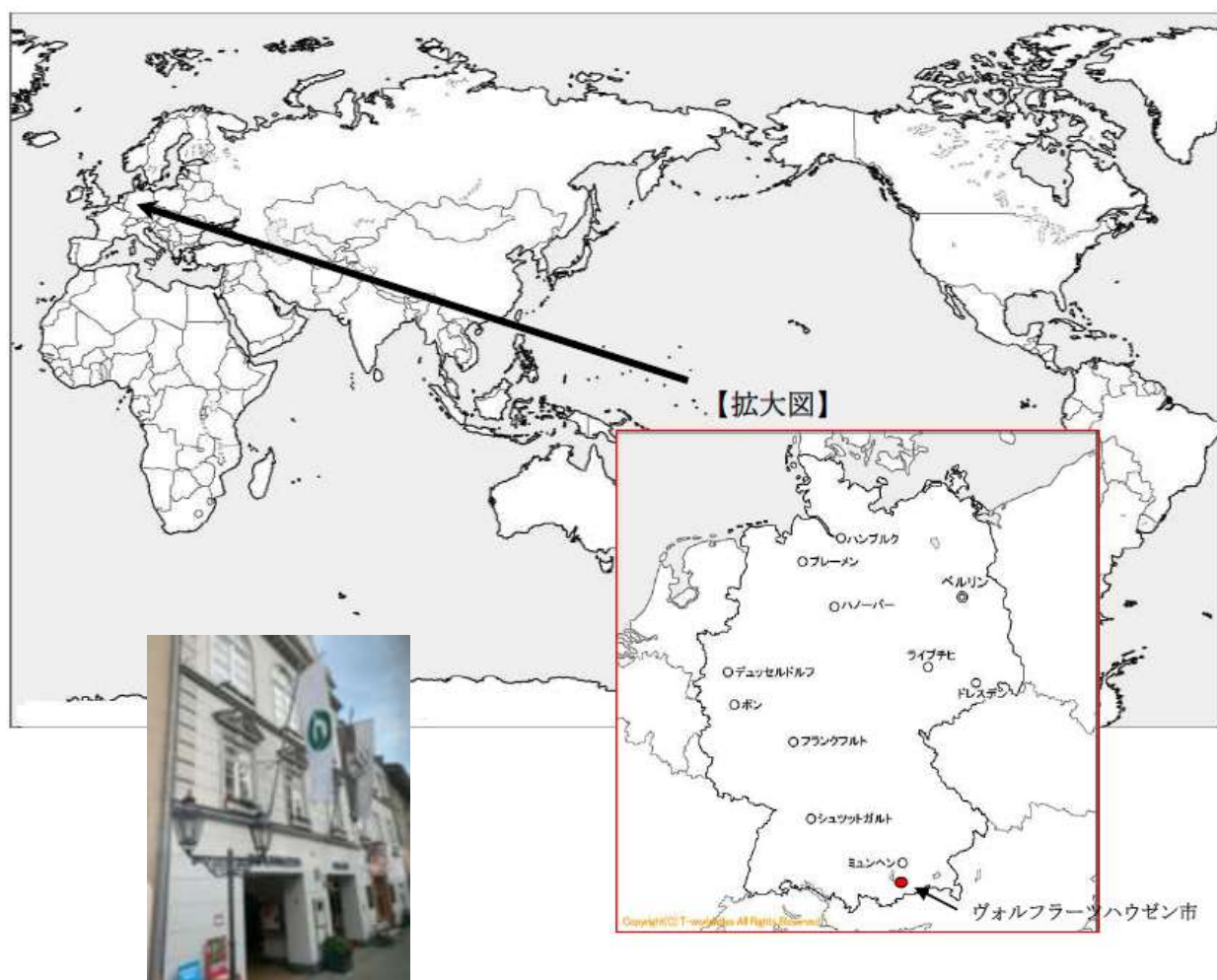


今までの交流事業

1988 年 (昭和 63 年)	・ 絵画親善使節団がヴォ市訪問 (美術連盟)
1989 年 (平成元年)	・ 絵画交流親善使節団がヴォ市訪問 (中学生による絵画交流とホームステイ)
1990 年 (平成 2 年)	・ 生け花交流使節団がヴォ市訪問 (華道連盟)
1991 年 (平成 3 年)	・ イサール・ロイザッハ勸業博覧会使節団が訪問 (新久ばやし保存会・企業)
1992 年 (平成 4 年)	・ スポーツ交流使節団がヴォ市訪問 (少年少女サッカーチーム)
1994 年 (平成 6 年)	・ 「文化の日」派遣使節団がヴォ市訪問 (藤沢獅子舞保存会)
1995 年 (平成 7 年)	・ イザール・ロイザッハ勸業博覧会使節団 (姉妹都市交流委員会理事・市職員)
1996 年 (平成 8 年)	・ 市職員 2 人が 2 ヶ月間ヴォ市で研修 ・ 青少年異文化体験訪問団 9 人をヴォ市に派遣 ・ ヴォ市音楽隊及び民族舞踊連盟が入間市訪問
1997 年 (平成 9 年)	・ バード・テルツ=ヴォルフラーツハウゼンホテル飲食組合が入間市訪問 ・ ヴォ市青少年一行 13 人が入間市訪問

	・国際交流協会有志 23 人がヴォ市訪問 ・入間市民混声合唱団 32 人がヴォ市訪問 ・ドイツ軍大学教授夫妻（ヴォ市在住）が入間市訪問
1998 年（平成 10 年）	・ヴォ市中学校教諭が入間市訪問 ・青少年異文化体験訪問団 14 人をヴォ市に派遣（入間市長及び入間市青少年） ・ヴォ市第一市長夫妻及び民族音楽隊 18 人が入間市訪問
1999 年（平成 11 年）	・ヴォ市オーケストラ一行 35 人が入間市訪問 ・国際交流協会有志 16 人がヴォ市訪問 ・ヴォ市青少年一行 11 人が入間市訪問
2000 年（平成 12 年）	・イザール・ロイザッハ勸業博覧会使節団 （入間市長及び高倉郷土芸能保存会 13 人） ・青少年異文化体験訪問団 11 人をヴォ市に派遣
2001 年（平成 13 年）	・ヴォ市青少年一行 12 人が入間市訪問 ・ヴォ市第一市長他 16 人が入間市訪問
2002 年（平成 14 年）	・ヴォ市千年祭記念として日本庭園を造園 ・青少年異文化体験訪問団 14 人をヴォ市に派遣 ・ヴォ市使節団 12 人が入間市訪問
2003 年（平成 15 年）	・イザール・ロイザッハ勸業博覧会使節団（上谷ヶ貫獅子舞保存会 17 人） ・ヴォ市青少年一行 12 人が入間市訪問 ・ヴォ市千年祭へ入間市公式訪問団（25 人） ・ヴォ市使節団 12 人が入間市訪問
2004 年（平成 16 年）	・青少年異文化体験訪問団 9 人をヴォ市に派遣 ・友好日本庭園管理指導者 2 人がヴォ市訪問 ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2005 年（平成 17 年）	・青少年柔道交流訪問団（19 人） ・ヴォ市青少年柔道交流訪問団 19 人が入間市訪問 ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2006 年（平成 18 年）	・青少年異文化体験訪問団 8 人をヴォ市に派遣 ・オーバーランドハーフマラソン出場者 5 人・友好日本庭園管理指導者 2 人を ヴォ市に派遣 ・ヴォ市使節団 14 人が入間市訪問 ・市制施行 40 周年記念式典にヴォ市から 3 人が出席
2007 年（平成 19 年）	・ヴォ市青少年一行 8 人が入間市訪問 ・ヴォ市「友好の夕べ」に入間市から 2 人参加 ・姉妹都市提携 20 周年記念式典訪問団 9 人をヴォ市に派遣 ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2008 年（平成 20 年）	・ヴォ市児童合唱団 45 人が入間市を訪問 ・オーバーランドハーフマラソン出場者 5 人・友好日本庭園管理指導者 2 人を ヴォ市に派遣 ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2009 年（平成 21 年）	・ロイザッハホール竣工記念式典訪問団 14 人をヴォ市に派遣 ・青少年異文化体験訪問団 4 人をヴォ市に派遣 ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2010 年（平成 22 年）	・青少年異文化体験訪問団 8 人と友好日本庭園管理指導者 3 人をヴォ市派遣 ・ペーター・シュトルチーナ氏が日本政府から「旭日双光章」の叙勲を受ける ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2011 年（平成 23 年）	・ヴォルフラーツハウゼン市市制施行 50 周年記念式典公式訪問団 8 人がヴォ市 を訪問する ・ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問 ・入間市市制施行 45 周年記念式典訪問団 3 人が入間市訪問

2012 年（平成 24 年）	・ 青少年異文化体験訪問団 8 人をヴォ市に派遣 ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2013 年（平成 25 年）	・ ヴォ市青少年一行 6 人が入間市訪問 ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2014 年（平成 26 年）	・ 青少年異文化体験訪問団 5 人をヴォ市に派遣 ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2015 年（平成 27 年）	・ ヴォ市青少年一行 5 人が入間市訪問 ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2016 年（平成 28 年）	・ 青少年異文化体験訪問団 6 人をヴォ市に派遣⇒中止 ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問（うち 5 人が入間市市制施行 50 周年記念式典訪問団）
2017 年（平成 29 年）	・ 青少年異文化体験訪問団 8 人をヴォ市に派遣 ・ 姉妹都市提携 30 周年記念公式訪問団 6 名、友好日本庭園管理者 3 名、ヴォ市訪問ツアー 6 名がヴォ市を訪問 ・ ヴォ市使節団 14 人が入間市訪問
2018 年（平成 30 年）	・ 世界姉妹都市の日集い訪問団 7 名がヴォ市を訪問 ・ ヴォ市青少年一行 7 人が入間市訪問 ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問
2019 年（平成 31 年） （令和元年）	・ 木下 博前入間市長がドイツ連邦共和国功労十字章を受章 ・ <u>青少年異文化体験訪問団 8 人をヴォ市に派遣</u> ・ ヴォ市使節団 15 人が入間市訪問





第12期生の紹介

青少年	役割と学年／随行者から	
 美和優花	リーダー（高校2年生） 今回のリーダーを立候補で担う。責任感があり、常に皆をリードし積極的にヴォ市に方々と接している姿が印象的。学校でも信頼のある存在と聞いて納得。	
 今井菜月	サブリーダー（大学1年生） 立候補でサブリーダーを担う。ほんわかした雰囲気が持ち味。畜産を学ぶ熱心な姿勢でクラウド・ハイリングレヒナー第一市長に積極的な質問攻勢。12年前の懐かしい写真も。	
 阿部柊吾	報告書担当（高校2年生） ホストファミリーのマキシ君の遊び相手として活躍。もの静かな大人しい性格の中に、自分の考えをしっかりと持っている。8月3日の歴史博物館で購入したぬいぐるみがヒット！	
 片山百萌	写真記録担当（大学3年生） 過去ホームステイ経験があり、8人の姉御的な頼りになる存在。医療に知識が深いことから、腹痛に迅速な対応により危機を救う。期間中、大学の課題に追われるも見事にやり遂げる。	
 清水俊祐	お別れ会担当（大学4年生） いつも一步引いた位置に身を置き、冷静な行動をとる。お別れ会のプログラムも緻密に計画し、信頼のある存在。ドイツ語や英語でのあいさつは素晴らしい。	
 杉井翔太	お別れ会担当（高校2年生） ホストファミリーのフェルトマイヤーさんが大絶賛するほどのナイスガイ。英語の語学力の高さが素晴らしい。お別れ会では子ども相手に容赦ないリフティングで…(笑)。超がつくほどの恥ずかしがりや。	
 竹下 好	報告書担当（高校2年生） 食事をこよなく愛する「よーしみちゃん」。通っている学校が入間市の事業に協力的で、生徒会長の肩書から出発前から大活躍(ありがとうございます！)。帰国後に行われる学校説明会ではヴォ市での体験談や異文化理解の大切さを話したはず(笑)。	
 晝間望愛	写真記録（高校1年生） 少年のような心を持ち元気に溢れ、空港ではスーツケースに乗って移動。出発一週間前にエフエム茶笛に出演。ヴォ市最終日のお別れのあいさつでボロ泣きしたことで随行者がもらい泣き。	
 柴田耕治	同行通訳者 過去3回ヴォ市を訪問し、初の青少年派遣事業の同行。8月6日のバーデハウスでは、難しい内容を同時通訳する姿はさすが柴田さん。一方でドイツの大皿料理の食事を残さず食べるフードファイター。	

お世話になった方々

ホストファミリー		お世話になった青少年
メラー家	父：メラー・フリードリヒさん 母：メラー・ポルティジョ・クララさん 娘：メラー・ラモン・ツォーエさん	美和優花
マルホルト家	父：マルホルト・グンターさん 母：マルホルト・クラウディアさん 娘：マルホルト・セラフィナさん	今井菜月
スパン家	母：スパン・イングリットさん 娘：スパン・ザブリナさん 娘：スパン・ユリアさん 息子：スパン・セバスティアンさん 息子：スパン・マキシミリアンさん	阿部 柊吾
ホフマン家	父：ホフマン・ヴィクトルさん 母：ホフマン・アングリカさん 娘：ホフマン・リディアさん	片山百萌
テパー家	父：テパー・アクセルさん 息子：テパー・セバスティアンさん ガールフレンド：ヴァイナー・ジェニーさん	清水俊祐
フェルトマイヤー家	父：フェルトマイヤー・マティアスさん	杉井翔太
ヘプフル家	父：ヘプフル・ヨゼフさん 母：ヘプフル・カリンさん 娘：ヘプフル・レナさん	竹下 好
ゴラシュ家	父：ゴラシュ・ノルベルトさん 母：ゴラシュ・ザビーネさん 息子：ゴラシュ・ベネディクトさん 息子：ゴラシュ・クレメンスさん 息子：ゴラシュ・フェルディナントさん	晝間望愛
ヴォルフラーツハウゼン市	第一市長 クラウス・ハイリングレヒナーさん 秘書 ヘルガ・ハチベキログルさん 同行通訳 アレク・サンドラフランクさん	
ヴォルフラーツハウゼン市 入間友好協会	会長 ヴィゲール・ゴルヴィッツアーさん ディーペン・ディートリントさん / ウルズラ・ルーカスさん / カリン・ロルさん グレゴリー・ブレイドさん / モニカ・ゲプナーさん / カルメン・グレープマイヤーさん	
ヴォルフラーツハウゼン市 山岳射撃協会（全日程同行）	ペーター・ミュールバウアーさん（ヘルガさん夫） ゾナー・ハチベキログルさん / クリス・デンケさん	
その他（同行者）	トビ・ヘプフルさん（8/2） / ラウラ・シュニオタレさん（8/2） / バスティー・ルッ プさん（8/5） / クリスティアン・ミュールバウアーさん（8/5、6）	
見学先等	ビッツヒさん（8/3 ヴァズマイアー地域歴史博物館） フィッシャー・フリュグルさん（8/6 民族衣装店） イネス・ローベンシュタインさん（8/6 難民支援施設カリタス） リヒャルト・ノイマイヤーさん（8/7 養蜂所） ジーモン・カレダーさん（8/8 市資料館）	



クラウス・ハイリングレヒナー第一市長
島田恒さん作の「茶畑からの富士山」の版画をお土産に



ヴォ市到着時の様子



入間友好協会会長
ヴィゲール・ゴルヴィッツアーさん



入間友好協会
グレゴリー・ブレイドさん、モニカ・ゲブナーさん



クリスティアン・ミュールパウアーさん



入間友好協会
(上)ディーペン・ディートリントさん



(左)ゾナー・ハチベキログルさん、清水さん
(右から2番目)ペーター・ミュールパウアーさん
(右)クリス・デンケさん



柴田さんとヴィゲール・ゴルヴィッツアーさん



入間友好協会
(左)カルメン・グレープマイヤーさん
(右)ウルズラ・ルーカスさん



(左)第11期生 吉川尚孝さん
(中)ゾナーさん、(右)クリスさん



ペーター・ミュールパウアーさん



入間友好協会
(左)カリン・ロルさん



ヴォ市側の事業担当者
ヘルガ・ハチベキログルさん



難民支援施設カリタスの
イネス・ローベンシュタインさん



同行通訳 アレク・サンドラフランクさん

派遣事業にかかる一連の日程

○募集要領配布	日時:平成31年2月1日(金)～ 自治文化課窓口
○募集要領配布 ○応募受付	日時:平成31年2月1日(金)～平成31年3月15日(金)午後5時15分 会場:自治文化課窓口
4月1日 平成から令和へ	
○作文選考	応募締切後～令和元年4月5日(金) ※選考委員へ作文写しを配付
○面接時間通知	日時:令和元年4月1日(月) 方法:郵送による
○選考委員会議	日時:令和元年4月11日(木) 午前10時00分～午前11時00分 会場:自治文化課内調整室 《事業実施判断》
○面接選考	日時:令和元年4月14日(日) 午前9時00分(受付)～ 会場:入間市市民会館(第8・10号室)
○派遣候補者決定会議	日時:令和元年4月14日(日) 面接審査終了後 会場:入間市市民会館(第8・10号室)
○選考結果通知	日時:令和元年4月17日(水)頃 方法:郵送による
○国際交流協会総会 及び結団式	日時:令和元年5月10日(金) 午後6時30分～ 会場:入間市産業文化センター(ホール棟)2階 第2集会室
○第1回事前研修	日時:令和元年5月25日(土) 午後6時00分～午後7時30分 会場:入間市産業文化センター(図書館棟)2階 研修室B
○第2回事前研修	日時:令和元年6月15日(土) 午後6時00分～午後7時30分 会場:豊岡プチ大学(IPOTビル2階)
○第3回事前研修	日時:令和元年6月22日(土) 午後6時00分～午後8時00分 会場:入間市産業文化センター(図書館棟)2階 研修室AB
○第4回事前研修	日時:令和元年7月6日(土) 午後6時00分～午後7時30分 会場:入間市産業文化センター(ホール棟)1階 第一集会室A
○派遣期間	令和元年8月1日(木)～8月9日(金)【7泊9日】
○帰国報告会	日時:令和元年8月26日(月) 午後2時00分～午後3時00分 会場:市役所503会議室
○入間万燈まつり協力	日程:令和元年10月26日(土)・27日(日) 世界のともだち広場



7/16 に FM 茶笛に出演！



第2回事前研修
駿河台大学に留学するミュンヘン大学ドイツ人学生との学び



第4回事前研修 お別れ会の練習です

(第12期)訪問時の主な日程

日	時	内 容
8月1日(木)	07:30 07:45 09:50 12:35 17:15 20:00 頃	入間市役所正面ロータリー集合 出発セレモニー バス出発 羽田空港国際線ターミナル着 搭乗手続き、出国審査 羽田空港離陸(LH715 便・ミュンヘン直行便) ミュンヘン空港着(所要時間:11 時間 40 分) 時差△7時間 ヴォルフラーツハウゼン市到着 歓迎会 ホストファミリー宅へ
8月2日(金)	08:30 09:45 13:10 17:30	スクールバス乗り場集合 ヴィース巡礼教会 ノイシュバンシュタイン城 スクールバス乗り場到着 ホストファミリー宅へ
8月3日(土)	09:00 11:00 12:15 17:10	スクールバス乗り場集合 シュリー湖 遊覧船乗船 ヴァズマイアー地域歴史博物館 スクールバス乗り場到着 ホストファミリー宅へ
8月4日(日)		青少年(ホストファミリーと過ごす日) 随行者(レーゲンスブルクへ)
8月5日(月)	08:15 08:44 10:00 11:00 17:10 17:50	ヴォルフラーツハウゼン駅集合 電車でミュンヘンへ 観光バスにてミュンヘン周遊 市内散策 (ホーフブロイハウス、買い物) 電車でヴォルフラーツハウゼン市へ 駅到着 ホストファミリー宅へ
8月6日(火)	09:30 11:30 13:30 16:00 18:00	市役所集合 フィンチャー・プリーゲル民族衣装店にて民族衣装の試着 難民支援問題と軽食 バーデハウス見学 ヴォルフラーツハウゼン市山岳射撃隊訪問(空気銃体験) ホストファミリー宅へ
8月7日(水)	08:30 09:00 11:30 14:00 18:00 19:00 21:30	ロイザッハホール駐車場集合 プレートツェル作り体験 ハイリング・レヒナー家、ヴァイダッハ農場訪問 養蜂所訪問 レストラン・フレサライお別れ会準備 訪問団主催お別れ会 ホストファミリー宅へ
8月8日(木)	08:50 09:00 10:00 11:20 12:00 13:30 16:40	市役所集合 歴史資料館見学 市内で買い物 市長とお別れ(議場にて) ミュンヘン空港に向けて出発 空港にて昼食 ミュンヘン空港離陸(LH714 便・羽田空港直行便)
8月9日(金)	10:50 12:00 15:30 頃	羽田空港到着(所要時間:11 時間 10 分) 入国審査 羽田空港国際線ターミナル駐車場 バス出発 入間市役所正面ロータリー到着



日別行程の記録

◆役割分担

(敬称略)

担当者	行動記録担当日	主な行事
晝間 望愛	8月1日(木)	ドイツへ向けて出発
美和 優花	8月2日(金)	市長表敬、ノイシュバンシュタイン城 他
杉井 翔太	8月3日(土)	シュリール湖、ヴァスマイヤー地域歴史博物館 他
全員	8月4日(日)	ホストファミリーと過ごす
竹下 好	8月5日(月)	電車でミュンヘンへ 他
清水 俊祐	8月6日(火)	民族衣装試着、カリタス、射撃(空気銃) 他
片山 百萌 阿部 柊吾	8月7日(水)	ブレーツェル作り、ヴァイダッハ農場訪問 他 お別れ会
今井 菜月	8月8日(木) 8月9日(金)	資料館見学、市内で買い物、市長とお別れ 帰国

1日目 8月1日(木) 出発

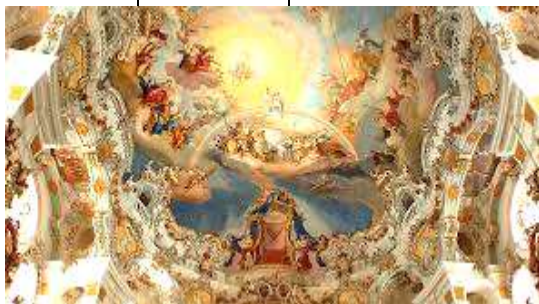
担当者：晝間 望愛

時刻	行動	場所	内容
07:30	集合	入間市役所正面ロータリー	市役所の方々にお言葉をもらい、出発セレモニーを行う
10:51	羽田空港着	羽田空港	荷物を預ける 事前に両替したユーロをもらう 荷物検査
13:05	羽田空港離陸	羽田空港	羽田空港を離陸し、約11時間飛行 機内食が2回
01:22 (日本時間) 18:22 (現地時間)	ミュンヘン 空港到着	ミュンヘン 空港	荷物を取りに行き、入国検査 ヴォルフラーツハウゼン市の方と合流しバスで移動
19:47	ヴォ市到着 歓迎会	ヴォ市役所前 レストラン	ホストファミリーと顔合わせ ヴォ市第一市長からのお言葉もらい、ドイツの初めての 食事
21:30	歓迎会終了 各自ホーム ステイ先へ	各自	ホームステイ先に向かい就寝。



2日目 8月2日(金)

担当者：美和 優花

時刻	行動	場所	内容
08:30	集合	バス停留所	
10:00	ヴィース巡礼教会到着	ヴィース巡礼教会	世界遺産にも登録されているヴィース巡礼教会を見学しました。中に入ってみると豪華で繊細な装飾に圧倒されました。天井にも美しい絵画が描かれていて、まるで教会が天高くつながっているようなデザインになっていました。
			
11:35	ノイシュヴァンシュタイン城到着	ノイシュヴァンシュタイン城	ディズニーの『眠れる森の美女の城』のモデルになったともいわれている、ノイシュヴァンシュタイン城を見学しました。バスを降りて、お城まで向かう途中で、アイスを食べました。日本のものよりの大きかったですが、味はさっぱりしていて食べやすかったです。城内には日本語の音声ガイドもあり、私たちもお城の歴史等を学びながら楽しむことが出来ました。途中から雨が降ってきましたが、ドイツの方が傘に入れてくださったり、かっぱを配って下ったりしました。
			
15:30	昼食	レストラン「バイリッシャ・リギ」	窓際に大きな窓があり、景色を一望できるレストランでした。当日は雨が降っていて遠くの山までは見えませんが、綺麗な湖が見えました。メニューが全部ドイツ語で書かれていて、日本とは違い写真等もなかったので選ぶのが大変でしたが、一緒に食べた方が優しく説明してくださいました。特別にみんなでシェアして食べました。お話をしながら、いろいろな料理を食べてみる事が出来て楽しかったです。
			

3日目 8月3日(土)

担当者：杉井 翔太

時刻	行動	場所	内容
09:00	集合 出発	スクールバス乗り場	
09:30	ヴォ市からシュリー湖へ	バート・テルツをバスで通過	 街並みはバスの中からしか見られなかったけれど、魔女の宅急便のような世界観で美しかったです。
11:00	到着	シュリー湖	シュリー湖を遊覧しました。一周6キロという広大な湖でした。船は二階建てで、上の階は天井が無いので風をより受けることができました。周りには緑豊かで気持ちよかったです。  
12:15	到着	ヴァスマイヤー博物館	到着後すぐに昼食を食べました。ソーセージが特に美味しかったです。
12:30	昼食		
14:00	博物館体験		昼食後、博物館を見学しました。博物館といっても体験型の博物館で、楽しかったです。ボーリングや輪投げ、水を運ぶリレーなどを体験しよりチームの団結力が増したように感じました。 
17:10	到着	ヴォルフラーツハウゼン市	

4日目 8月4日（日）は、ホストファミリーで過ごした日（P19以降に掲載）

5日目 8月5日（月）

担当者：竹下 好

時刻	行動	場所	内容
08:30	集合	ヴォルフラーツハウゼン駅	
08:44	エス・バーン		ドイツの鉄道に初乗車 ペットも自転車も電車に乗せることができる
10:00	市内観光 (観光バス)	ミュンヘン市内	・スターバックスやマックの建物がいちいちおしゃれ ・タクシーがベンツ ・ルードヴィヒ II 世の大きな銅像が印象的
11:30	昼食	ホーフブローハウス	・世界一有名なビアホール、ホーフブローハウスで昼食 ・広々な店内でありながら人で賑わっている ・ジャガイモのだんごと牛肉の煮込みが美味しい ・デザートはどれも美味しい
14:00	買い物		・雑貨店や食品店でショッピング ・ドイツで有名なミルクチョコを大量に買う ・雑貨店には民族衣装をイメージしたストラップや絵はがきが数多くあった ・文房具店には本格的な画材をはじめ、9 月から新学期を迎えるためたくさんの筆記用具が並んでいた ・ヴィクトリア リエンマルクトでは新鮮な野菜や果物のたくさんの店舗があった
17:00	仕掛け時計	市庁舎	・市庁舎にある仕掛け時計の演奏は「ショー」であった ・人形の精巧さに驚かされ、特に上段の騎士が交差する瞬間が印象的
17:20	エス・バーン	ヴォルフラーツハウゼンへ	・ヘルガさんの息子:ゾナーさんたちと英語で会話 ・ドイツには「しゃぶしゃぶ」や「すき焼き」はなく、とても興味をもってくれた
17:50	解散	ヴォルフラーツハウゼン駅	



6日目 8月6日(火)

担当者：清水 俊祐

時刻	行動	場所	内容
09:30 11:30	民族衣装試着	Fischer Pflügl	・朝走るつもりだったのに、雨が降ったりやんだりで断念。ドイツの天気は変わりやすい ・バイエルンの民族衣装の試着をしました ・村山さんは自分のために購入していました  
11:30 12:45 13:45	難民との交流 昼食		・ドイツの難民事情が分かりました。 ・昼食ではシリアやサウジアラビアの料理を食べました。以前から気になっていたクスクスを食べられたのが良かったです。ちょっと辛い。  
14:15 16:00	歴史学習	Badehaus	・第2次大戦前後のヴォ市の歴史について学びました。ドイツ人の歴史認識が日本人のそれとそんなに変わらないのだと分かりました。 ・今もなお使われ続けている(かつての)ユダヤ人労働者の住宅街を見て衝撃を受けました。  
16:30 18:00	射撃体験 バーベキュー	Gebirgsschützen Kompanie	・山岳射撃協会では射撃の体験をしました。銃が重くて狙いを定めるのが難しかったです。 ・バーベキューもしました。  
18:00 22:00	お土産購入 ヴォ市観光 ゲーム		・一足先にホストと一緒に土産購入。その帰りに消防署や小学校を案内してもらいました。 ・家では Nintendo Switch で異文化交流。

7日目 8月7日(水)

担当者：片山 百萌

時刻	行動	場所	内容
07:15	ホストファミリーと朝食	ホストの家	ホストファミリーと一緒に朝食をとりました。紅茶を鍋で作っていたことに驚きました。
09:30 11:30	プレッツェル作り 	 	・1人5つのプレッツェルを手作りしました。 ・生地は弾力がありもちもちしていました。  ・プレッツェル以外のパンの製造工程も見学させていただき、丸いドーナツのようなお菓子をみんなで試食しました。味は揚げパンに似ていて非常に美味しく、おかわりをするメンバーもいました。  ・地下の小麦粉の貯蔵庫も見せて頂きました。蔵庫には1tの小麦が保管されていましたが、1ヶ月でなくなるそうです。 ・焼きたてのプレッツェルは思っている以上に柔らかく食べやすかったです。
12:00	家畜の飼育 農場訪問	ハイリングレヒナー家 ハインリッヒ家の農場	・50ヘクタールもの広大な土地に牛が6頭いました。4頭は子牛で2頭は大人です。牛たちは自由に歩き回ることができのびのびと生活をしていました。  ・大人の牛は 700kgあり、ちょうど出荷の時期だそうです。 ・私たちが牛から離れると、悲しそうに鳴いていました。

12:45 	昼食 鷹体験	ハイリングレヒナー 家	・お昼はそのままハインリッヒ家の庭で頂きました。 ・午前中に作ったプレッツェルと一緒にハムやチーズ、魚といった種類の料理を食べました。 ・食事の途中には市長の友人で鷹を飼育されている方がお見えになり鷹に触らせてもらったりしました。   ・鷹は生後4ヶ月の雄で体重は500g ・生後2ヶ月から訓練をしていました。
14:00	農場見学	ハインリッヒ家	・農場には山羊とロバがいました。小集団ずつゲージが分かれており、時間になると外に出て過ごすことができます。 ・まだ生まれて1ヶ月の赤ちゃんもいました。 ・干し草が大量にあり、触ると想像以上に柔らかかったです。 
15:30	養蜂場見学		・6つの家族がそれぞれの木のボックスで過ごしていました。 ・蜜は香りがよく非常に美味しかったです。 ・養蜂場周辺は花の種類が豊富で、いろんな花の蜜から蜂蜜ができていました。 

7日目 8月7日（水） お別れ会

担当者：阿部 柊吾

時刻	行動	場所	内容
18:00	準備	レストラン・プレーサライ	みんなで鶴をおりながら準備したり打ち合わせしたり…バタバタしながらも計画を立て、多少不安が残ったが、あとはなんとかなるだろうと思いつつホストファミリーのみなさんを待った。
19:00	お別れ会		ホストファミリーのみなさんを拍手で迎え入れ、いよいよお別れ会が始まった。 「どこからきたの？」の合唱を無事に終えた後、村山さんと市長さんからの一言。 この交流の企画をしてくださった方々には本当に感謝しかないと、改めて実感した。 村山さんが泣きそう？になっていたのが気になった。 出し物として披露したリフティング対決や書き初めでもみんな盛り上がってくれた。 
22:30	お別れ会 閉会		時間が押していたため、少し削ってしまった部分もあったが、短い時間の中で臨機応変にできたかなと感じた。 入間市とヴォ市のプレゼント交換が行われ、入間市側は当日使用した福引き機を、ヴォ市側はみんなにお菓子やアルバムをくれた。 最後に美和さんが終わりの言葉を述べ、一本締めで会を終えた。



8日目 8月8日(木)

担当者：今井 菜月

時刻	行動	場所	内容
08:00 08:30	朝食	ホストの家	ホストファミリーと食べる最後の朝食でした。お土産をたくさんもらって嬉しかったです。ホストシスターとはここでお別れでした。折り紙で作ったひまわりにメッセージを書いて渡しました。
09:00 10:00	資料館見学	資料館	ヴォ市の歴史に関する展示を見学しました。1991年の日本の使節団の写真もありました。
10:00 11:00	買い物	ヴォルフラーツハウゼン市内	最後にヴォ市のお店でお土産をたくさん買えました。お土産屋さんだけではなく普通のドラッグストアのようなところでの買い物もできて楽しかったです。この間、百萌さんはホストファミリーに病院の見学に連れて行ってもらっていました。
11:00 12:00	お別れ	市役所	市長さんやホストファミリー達の前で一人一人コメントをしました。望愛が泣いていて、通訳のアレックスももらい泣きしていました。もうお別れだと思うと、私も少し涙が出ました…。
12:00 13:30	移動	バス	ホストファミリーと最後のお別れをして、バスに乗り空港へ出発しました。お別れは本当に悲しくてたくさん泣いてしまいましたが、また会おうねと言ってもらえてうれしかったです。
13:30 17:00	昼食 買い物	空港	空港で軽食をとり、空港まで来てくれていたドイツの人たちともお別れをしました。荷物を預けて税関を通った後は、小銭を使い切るべくみんなお土産を買っていました。

9日目 8月9日(木)・10日(金)

担当者：今井 菜月

時刻	行動	場所	内容
11:00	移動	飛行機	機内食でそうめんが出て、久しぶりの和食に感動しました。 
11:00	移動	空港 バス	日本に着き、暑さと湿度に絶望しました。 
	昼食	パーキングエリア	パーキングエリアで久しぶりの日本食を食べて、みんな嬉しそうでした。私は冷やし中華を食べました。帰りのバスでは“日本やだ…”というムードが漂っていました(笑)
15:30		市役所	市役所で簡単にセレモニーをして、解散しました。 

8月26日(月)に行った帰国報告会



4日目 ホストファミリーで過ごした日

4日目 8月4日（日）

担当者：美和 優花

時刻	行動	場所	内容
10:30	ミュンヘン 到着		前日の夜にホストファミリーがどこに行きたいか聞いてくれました。ミュンヘンにつくと私が行きたかったレジデンスという場所まで歩いて向かいました。街の建物すべてが綺麗で、歴史的な建物ばかりでした。
11:00	レジデンス 到着		想像していたよりも広く、本当にたくさん見所がある宮殿でした。ひとつひとつの部屋が豪華絢爛で細かいところの装飾まで丁寧に作られていて、一日中いられそうな場所でした。写真は「アンティクヴァリウム」と呼ばれる、天井まできれいな絵画で埋め尽くされたドーム状の場所です。左右の壁には古代ギリシア時代の彫刻が名前とともにずらりと飾られています。世界史の授業で聞いたことある人物の彫刻なども飾られており、見ていて楽しかったです。貝だけで作られたモニュメントなど初めて見るものもたくさんあってわくわくしました。
14:00	昼食		イタリア料理屋でパスタを食べました。天気が良かったのでテラス席がとてもきもちよかったです。日曜日は、いろいろなお店がお休みということに驚きました。
15:30	ミュンヘン 散策		お昼を食べ終わった後は、川沿いの歩道を歩き、移動式のお祭りを見に行きました。歩道の左右に綺麗な川が流れていて、そこで泳いでいる人もたくさんいました。歩行者専用の遊歩道のような道が出来ていて、川の流れる音を聞きながらの散歩は涼しげで気持ちよかったです。その後お祭り会場につくと、そこは沢山の人であふれていました。多くの出店があり、伝統的な飾り物や食べ物が売っていました。ホストシスターと一緒に移動式の観覧車に乗ったりしました。ホストファミリーのみんなとたくさんお話しできて、行きたかった場所にも行けて、最高の休日になりました。
			

4日目 8月4日(日)

担当者: 今井 菜月

時刻	行動	場所	内容
08:30 09:00	朝食	ホストの家	庭のテーブルで景色を見ながら食べました。とっても気持ちよかったです。天気や気温が良ければ庭で食べることが多いそうです。パンやブリュッセルにジャムやサラミなどを合わせました。
09:30 10:30	移動	ホストの車	ミュンヘンの動物園へ向かいました。道路わきに駐車スペースがたくさんあるのが新鮮でした。
10:30 15:30	動物園	動物園	日本より自然に近い感じの展示が多くとても良いと思いました。また、小さい子供がたくさんいてかわいかったです。お昼にはホストマザーが作ったお弁当を食べました。猛禽類を使ったバードショーも見ました。 
15:30 16:00	移動	電車	ミュンヘンの中心街へ電車で移動しました。ドイツに来てはじめて電車に乗り、改札のシステムが日本と違っていて少し戸惑いました。
16:00 18:30	公園を散策	ミュンヘン 市内	市内の公園に行き、川でサーフィンをしているのを見ました。その後美術館のカフェに寄り、グレープフルーツジュースとサンドウィッチを食べました。“堅い天候の会社”と日本語でプリントされた T シャツを着た人がいて驚きました。
18:30 19:00	移動	電車、ホスト の車	ヴォルフラーツハウゼンまで戻りました。時差ぼけと疲れで寝てしまいました。
19:00 20:00	近所のパーティー	ホストの家 の前の通り	ホストの近所の人たちが集まって、通りでパーティーをしているのにつれて行ってもらいました。みんなが料理を持ち寄って、肉を焼いたりもしていました。ホストマザーの作ったスイカとチーズとミントのサラダがとてもおいしかったです。他にも肉やソーセージなどを食べました。
20:00 21:00	ホストシスターが写真を撮りに行くのについていく	丘	ホストシスターが大学の課題で写真を撮りに行くのについていきました。ホストシスターの車で近くの丘まで行きました。ちょうど夕焼けの時間帯で、景色が本当に美しかったです。
21:00	帰宅	ホストの家	家に戻って、ホストファミリーのペットのペッパーという子猫としばらく遊びました。 

4日目 8月4日(日)

担当者: 阿部 柊吾

時刻	行動	場所	内容
09:00	朝食	ホストファミリー宅	よく眠れて、しっかり疲れが取れた。
11:00	出発		天気が良く、車窓を全開にして、音楽をガンガンにしながら向かった。
12:00 12:30	到着 見学	アリアンツ・アリーナ	ガイドさんのもとスタジアム内を見学。フィールドの気迫もさることながら、選手たちのロッカールームまでみることもできたのはとても感動した。    また、博物館の方にも立ち寄り、バイエルン・ミュンヘンの歴史について学ぶことができ、新鮮な気持ちになった。
14:00	昼食	KFC	遅めの昼食。KFC でスパイシーハンバーガーを食べた。見た目では選んだけど、結構辛くて美味しかった。
15:00	帰宅	ホストファミリー宅	
17:00	川へ行く	川	近くの川に泳ぎに行った。日差しが良かったが、冷たい風が吹いてきたのですぐに帰宅した。 
19:30	夕食	レストラン	夕食を食べにレストランへ行った。結構混雑していたが、雰囲気の良いし外観もおしゃれで良いお店だなと思った。 パスタとピザを注文し、それを分け合って食べた。
22:00		ホストファミリー宅	兄のセバスチャンとUNOをしながら会話をした。セバスチャンは日本に来たことがあり、初めて東京を訪れたときはとても高いビルと、人の多さに驚いたと言っていた。日本の食べ物は、ドイツと比べると比較的小さいので、あまりお腹が満たされないと冗談交じりに行っていた
22:30	就寝		アリアンツ・アリーナに連れていってくれたり、川で泳いだりと、とても充実した一日になった。

4日目 8月4日(日)

担当者: 片山 百萌

時刻	行動	場所	内容
08:00	ホストと朝食	ホストの家	・ホストマザーが前日に手作りをしたケーキを食べました。甘すぎず、美味しかったです。クルミのケーキにレモン砂糖のソースがかかっていました。
09:00 10:00	ホストと一緒に伝統的な遊びを見る	イザール川 Isar river	・沢山の人が筏に乗り音楽を聴きながらお酒を楽しんでいました。 ・非常に人気の娯楽で観光客の体験イベントとして親しまれていました。 
10:30	ホストマザーの勤める学校に行く	学校	・修道院付属のギムナジウム(10歳～18歳が行く学校)に行きました。 ・ホストマザーが理科の先生として勤めている学校です。 ・日曜日だったので礼拝が行われていました。 ・ホストマザーが家からこの学校まで10kmの道のりを自転車で通勤するそうです。 
13:30 18:30	ハイキング		・1時間半ほど山を登ると滝が現れ、その近くでお昼ご飯を食べました。 ・普段は人がほとんどいないそうですが、この日は夏休み中ということもあり子供たちがたくさん川で遊んでいました。 ・この山には特徴的な植物がいくつかあり、生物学者のホストマザーがいろいろと教えてくれました。 
19:00	夕食	自宅	・天気が良かったので、お庭で夕日を眺めながら食べました。 ・この日のメニューは、ミートソーススパゲッティとトマトとモッツアレラチーズのカプレーゼでした。

4日目 8月4日(日)

担当者: 清水 俊祐

時刻	行動	場所	内容
18:00 24:00	ホストの Birthday Party	ホストの家	・ホストの友達 26 人が来てバースデーパーティーをしました ・ドイツ人がどのように誕生日を祝うのかが分かりました
10:30 11:30	朝食	ホストの家	・バイエルンの典型的な朝食を食べました ・WeißWurst, Brezen, Kartoffelsalat を食べました 
12:30 13:30	移動	ホストの車	・ミュンヘンへの移動(アウトバーン) ・アウトバーンは景観にも配慮して作られていると分かりました
13:30 15:00 16:30	美術館鑑賞	Pinakothek der Moderne + Alte Pinakothek	・モダンピナコテークとアルテピナコテークを訪れ、絵画と彫刻と建築を鑑賞しました ・2 つの隣接した美術館は館内のつくりが全く異なり、見て回るだけでも面白かったです ・ノイエピナコテークは改装中でした  
16:30 17:00	移動	ホストの車	・ミュンヘン市内にある歴史的建造物を車で巡りながら、オリンピック公園まで移動
17:00 17:30 19:00	建築鑑賞 + 軽食	Münich Olympia Stadion + Olympic Tower	・自分の好きな建築物の一つだったオリンピックスタジアムと、その近くにあるオリンピックタワーを訪れることができました！ ・間近で見ると迫力が違いました！  
19:00 20:00	移動		・ミュンヘンから夕食の会場までの移動 ・ミュンヘンの渋滞を経験
20:00 21:30	ディナー		・地元で人気のイタリア料理店でディナー ・麺を食べたくてスパゲッティを頼んだつもりがペンネが出て来て少しショック

4日目 8月4日(日)

担当者: 杉井 翔太

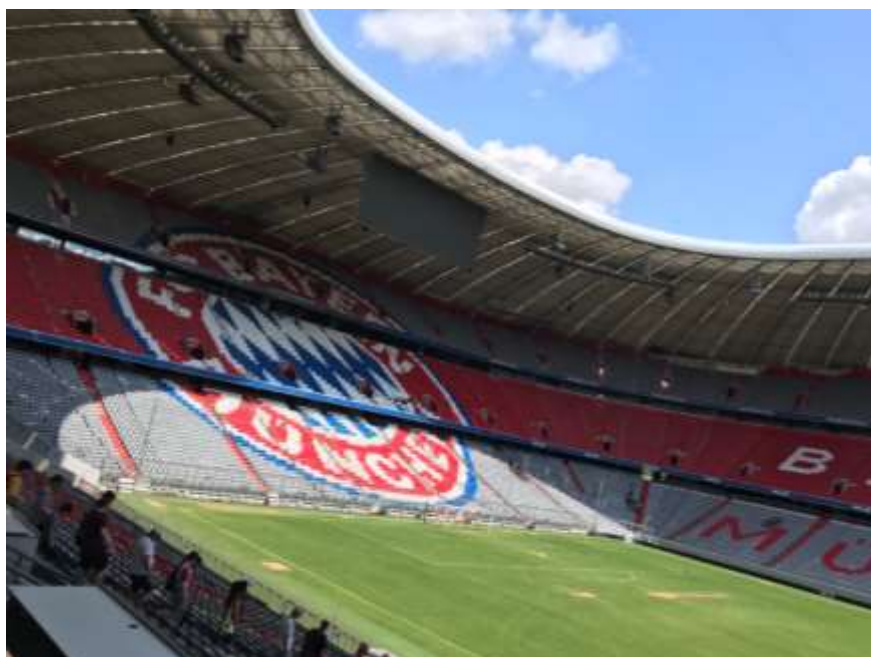
時刻	行動	場所	内容
10:00	出発	自宅	
12:00	到着	アリアンツ・アリーナ	この日は娘さんのダニエラも来てくれました。また、ヘプフル家も待ち合わせをして一緒に見学しました。 ここはサッカーをしている私にとって絶対いきたい場所のひとつでした。スタジアムの中や選挙のロッカールーム、バイエルン・ミュンヘンの歴史まで知ることができました。 昼食もスタジアム内にあるホットドックを食べました。ショッピングもたくさんできて充実した見学を行うことができました。
			
16:00	ツーリング	ヴォルフラーツハウゼン市とその周りの市	一度家に帰ってマティアスと2人でバイクをつかってツーリングをしました。 バイクはホンダのシャドウというバイクでした。 バイクに乗るのは初めてで少しビビってましたが、楽しかったです。 特に高速道路ではとてもスピードがでるのでもっと楽しかったです。 将来バイクを買おうと思わせてくれるような体験でした。 また、日本はわかりませんがドイツではバイクどうしが対向車線ですれ違う時に腰あたりで人差し指と中指をくっつけ、それ以外の指は握ったような形を作り知らないバイク仲間にも挨拶として行っていることに驚きました。
			
18:00	夕飯	自宅	ツーリングから帰ってきて夕飯を食べました。 夕飯はバーベキューでした。 牛肉とソーセージをたべました。 肉は厚くて食べるのに困難でしたが、とても美味しかったです。
			

4日目

8月4日（日）

担当者：竹下 好

時刻	行動	場所	内容
09:30	朝食	ホストファミリー宅	家族全員が揃い朝食を食べることができた。 普段は仕事で朝が早く、ホストファザーとも会話をしながら食事をするのができうれしかった。
10:30	移動	ミュンヘン	サッカースタジアム アリアンツ・アリーナへ向かう。
11:00	到着		サッカー大国ドイツの強豪 FC バイエルンのスタジアムへ。スタジアムは想像以上に広い。 途中、杉井くんと遭遇し合流する。
12:45	ツアー参加	アリアンツ・アリーナ	スタジアムの施設や歴史についてのガイドツアーに参加。スタッフの説明が楽しい。
13:30		オリンピアパーク	ミュンヘンオリンピックが開催された地。休日ということもあり多くの人で賑わっている。
15:00	昼食		ドイツの固めのパンにソーセージを屋台で購入。 マスタードやケチャップはセルフ。かけ放題。
16:00	帰宅	ホストファミリー宅	
17:00	夕食		夕食はバーベキュー。 ホストファザーがいろいろな種類のソーセージを焼いて食べさせてくれた。どれも美味しい。 デザートでハリボのグミを食べたが、日本では売っていない大きなサイズでテンション上がる！ バーベキュー後は、ドイツと日本の文化について話す。ヴォルフラーツハウゼン市では昔、いかだを作っていたという話を聞き、驚いた。
22:00	就寝		お風呂に入り、就寝



4日目 8月4日(日)

担当者：晝間 望愛

時刻	行動	場所	内容
07:00	起床	ホームステイ先	朝食を食べ、外出準備
09:30	移動	高速道路で移動	山に向かう。
11:00	到着	山	リフトに乗り途中で降りて頂上まで登山。
13:20	昼食		ホストファミリーと昼食を食べ、昼寝 ヨーロッパで1番長い滑り台で下山
15:00	移動	高速道路	湖まで移動
15:20	到着	湖	水着に着替えみんなで泳ぎ、アイスを食べる
16:00	帰宅		ホストブラザーの友だちの家まで行き、家の畑を見学。
17:00	到着	ホストファミリー宅	洋服を着替えて、ホストブラザーとサッカー
18:30	夕食		ホストマザー手づくりのご飯
21:00	就寝		お風呂に入り、就寝

学習の記録

テーマ：日常の中にあるリサイクルの工夫について

氏 名：美和 優花

私は中学生の頃、好きな国の好きなことについて調べるという課題でドイツのリサイクルについてレポートにまとめました。その時にドイツは自然環境に気を配る人や、決まりを守ろうとする律儀な人が多いことから、世界有数のエコ先進国であることを知りました。実際にドイツではどのようなエコ活動が行われている自分の目で見てみたいなと思い、このテーマにしました。今回は私が見つけた2つのリサイクルの工夫について紹介したいと思います。

① ドイツ赤十字社の衣類回収 BOX

このポストのようなものは、私のホームステイ先から集合場所のバス停に行くまでの道の途中に置かれていたものです。これは、『Kleiderspende』といって24時間いらない洋服を入れることが出来るコンテナだそうです。

集めた古着をドイツ赤十字社等が集め、専門家がどのように利用するか査定したうえで、世界の洋服が足りていない地域へ送ったり、リサイクル会社やセカンドハンド店へ売ったりするそうです。



② デポジット制度

ドイツではペットボトルや缶を購入する際に、商品代とは別に容器の保証金を支払います。その分の代金は容器を返品すると戻ってきます。返品はスーパーにある回収機にいれと、金額が書いてあるレシートが出てきて、それをレジに出すと返金してもらえます。そのレシートは、回収機の近くにある『SPENDENBOX』に入れると寄付することが出来ます。購入したお店でなくても、ドイツ国内のどのお店でも返品できるようになっており、デポジットの金額はペットボトルが1本25セントほどで、ビール瓶が8セントほどです。2003年からこの制度を実施しているドイツでは、90パーセント以上のペットボトルが返却されているそうです。



実際、私たちがドイツにいた時もバスの中で配られた、ペットボトルの容器を回収してもらっていました。1本25セントなので、日本円で約33円、何本も購入すると大きな金額になるので、ほとんどの人が返品するそうで、街ではペットボトルのポイ捨ては一切見られないそうです。

これらの他にも実際にドイツで過ごしてみる中で、環境に対する意識が高いなと感じる部分がありました。例えば、スーパーで買い物するときにはマイバックをかご代わりに使っていてビニール袋を使わなかったり、日本なら発泡スチロールやラップを使って包装して売っている商品も包装されずに量り売りされていたり、日本にはない工夫であふれていました。自分の家のごみ箱を見てみると食品が包装されていたビニールゴミがたくさんありました。日本のリサイクル技術や、人々の意識はまだまだだなと思いました。

また、ドイツで過ごしてみてドイツの方は常に自然の中にいて自然を愛しているのだと感じました。週末は家族全員で山や川に遊びに行くのが当たり前で、街の中にもたくさんの緑がありました。都会のミュンヘンですら建物だけではなく多くの緑がありました。生活の一部として慣れ親しんでいるものだからこそ、自然と共存していこう、環境を大事に守っていこうという気持ちが芽生えるのではないかと考えました。

日本では、都市開発のために多くの自然を壊し続けています。便利さの裏にある環境問題をもっと意識していかなければいけないと強く感じました。

学習の記録

テーマ：ドイツの畜産について

氏 名：今井 菜月

ドイツでの滞在中、街から少し出ると牧草地が広がっていて、牛などが放牧されているのをよく見かけました。動物たちはとてもびのびと過ごしているように見えて、最初のうちは“観光用に放牧しているのかな？”とってしまうほどでした。この光景はとても印象に残りました。

今回は実際に肉牛の肥育農家をしている市長さんのお話を聞くことができました。市長さんのところでは7月から10月に放牧をしていて、子牛を3年かけて出荷できる大きさまで育てているそうです。夏の間ずっと放牧をしているので病気になったことがないとおっしゃっていました。また、毎日世話をしているので様子を見たら何となく体調などが分かるともおっしゃっていて、愛情をこめて育てているのが伝わってきました。たくさんたくさん質問をしてしまったのですが（笑）、その一部を以下にまとめます。

Q.ドイツでは放牧飼育が一般的なのか

A.昔は放牧飼育がメインだった。最近は牛乳の値段が上がっていて乳牛では牛舎内での大規模な飼育で利益を上げるやり方をしている農家も多くなっている。

Q.飼育するうえで気を付けていることはあるか

A.牛が外に出たり、外の空気が吸えたりするようにすること。また、冬に牛舎で飼育しているとき牛が怪我をしないように敷料として柔らかい乾いた藁を敷くこと。

Q.除角（牛の角を取り除くこと）はいつどのように行っているか

A.生後4週間のまだ角が育っていない時期に焼く。

A.出荷から屠畜までに牛に給水しているか

Q.車で30分くらいの距離の近所の肉屋さんに出荷しているので給水は特にしていないが、法律で6時間以上輸送するときには給水しないといけないと決められている。

放牧をしていること、はやい時期に除角をしていること、輸送中の給水について法律で決まっていることなど、日本よりも家畜の快適性に配慮された畜産がなされていると思いました。逆に防疫対策を特にしていないと言っていて、放牧していて飼育密度も低いことや気候なども影響してなのか、感染症への意識は日本よりも低いのかかもしれないと思いました。



学習の記録

テーマ：「ドイツ人の生活習慣や考え方」について

氏 名：阿部 柊吾

ドイツには、日本では珍しいと思われるマナーが存在する。それについて考えてれば、必然的にどのような考え方をしているのかがわかるのではないかと思った。

まず「人がいる場で手を挙げるのは良くない」。このマナーにはドイツの歴史が深く関わっている。ドイツでは第二次世界大戦中に行われた多数のことがタブーとされており、この手を挙げる行為はナチスの挨拶に似ているとされ、原則的に禁止されている。その代わりとして人差し指を挙げるのが普通だそうだ。

次に「初対面での挨拶は握手」。このマナーにおいて特にポイントなのが、しっかり力を込めることだという。握手の強さは相手への信頼の証とされている。また、目を逸らさずに会話することで、相手を尊重し、失礼のないようにコミュニケーションを取るという。

最後に「スーパーで割り込む・譲る」。レジに列ができているとき、自分の買うものが極端に少ないときは割り込んでしまっても OK だという。逆に、自分の後ろに並んでいる人が少ない場合も譲るべきである。お互いを尊重し合うドイツ人だからこそその良いマナーだと思った。

実際、これらのマナーを見かけたことがあり、ドイツではこれが普通なのだと思う。

これらについて考え、自分で見出した結果は、ドイツ人は歴史を重んじる文化があり、それを大事にしながらも、どんな人でもしっかりと尊重し思いやることを大切にしている心優しい人々だということだ。

学習の記録

テーマ：ドイツの公衆衛生と医療制度

氏 名：片山 百萌

・日本とドイツの医療システムの違い

医療システムにおいて最も異なる特徴は、家庭医のシステムです。家庭医とはかかりつけ医ともいい、患者が継続して診断してもらう医師をさします。日本では内科、整形外科、皮膚科など症状により異なる医師に診てもらいます。しかし家庭医制度では患者の年齢、性別、症状が現れている部位に関係なく総合的に診療を 1 人の医師が行います。日本にも家庭医はいますがあまり普及していません。家庭医は地域医療であり、私のホストファミリーの場合は家から車で 5 分程度の所にいると言っていました。家庭医は対象者の身体の情報や既往歴をよく知っているため、より信頼できる存在になります。お互いがよく知っているため、治療方針に対しても気を使うことなく質問できるそうです。治療方針を決める際に、家庭医は治療の選択肢を与えて利点と不足している部分を説明するそうです。ヴォ市には大学付属病院がないので、もっと詳しく調べた方がよいと感じた時や家庭医から専門医を紹介された場合はミュンヘン大学付属病院へいきます。重症な場合はヘリコプターで移動します。ミュンヘン大学付属病院にはたくさんの専門医と研究者がいるため、可能な治療の幅が広がるそうです。

[ホストファミリーへの質問]

Q1：家庭医だけの診断では心配になることはないのか？

A：家庭医は自分の身体のことや性格まで含めて最もよく知っている存在。

家庭医の診断に対して不安に思ったことはない。むしろ家庭医に見てもらう方が安心する。家庭医も自分たちのことをよく知っているため、必要が迫られる時は、専門医の方をすぐに紹介してくれる。また非常に緊急性の高い時はヘリコプターでミュンヘン大学付属病院に連れて行ってくれるため心配ない。家庭医が今までに健康に関するデータや心電図、レントゲンといった結果を管理しているため、ミュンヘン大学付属病院などの大きい病院に行く時は、そのデータを家庭医が専門医に共有してくれる。

Q2：ドイツにおいて治療に対する意思決定の特徴は何か？

A:医療システムの違いは大きい。基本的に家庭医制度を作っていることで、家庭医には時間をかけて本音で話せる関係作りができています。分かりづらいことは何回でも聞けるし、医師も患者の

特性を踏まえた上で治療の選択を準備している。

〔ミュンヘン大学公衆衛生学部教授への質問〕

Q：健康に対する社会的要因１０個（社会格差、失業、幼少期、教育、社会的支援、食品、労働、社会的排除、薬物依存、交通）の内、最もドイツにおいて重要だと思うものは？

A：教育

健康に対する教育、社会的援助を受けられることに対する教育、次の時代を担うことも含めて教育が大切。教養があれば、社会的格差、失業なども減ると考える。特にドイツでは難民として、シリアや他の国から来た人々がいる。彼らは社会的要因をたくさん抱えている。これはドイツの現在における大きな問題。言語の壁が大きい。正しい情報の理解や選択をすることが難しい。

※ドイツの医療制度で面白かったこと

高齢者であり特に一人暮らしをしている市民に対しては、モニターをつけており身体に異常が発生した際は救急から電話がかかってくるようになっていました。電話に応答しないと救急車がその家族と連絡をとった上で出動します。非常によくできており便利なシステムだと思いました。病気や健康でない部分があっても安心して自宅ですごせる環境になっていました。デメリットとしてホストファミリーから聞いた話では誤作動を起こすことがあるそうです。誤作動の原因を究明しないと心配をしないといけなくなる時間が増えてしまいます。



「ドイツの救急車とドクターカー」

学習の記録

テーマ：ドイツと日本の景観配慮に対する意識の違い

氏 名：清水 俊祐

私は 2 年前に別の機会でドイツを訪れた際に、その街並みに衝撃を受けました。自分自身が 19 年間生きてきた日本では到底想像することができないほど整備され、自然に満ち溢れた街並みに感動したのを覚えています。そんな街並みに感動する一方で、何故そのような差が生まれてしまったのか？日本でもドイツのような街並みを再現できないものか？非常に興味を持ちました。今回の派遣では「街並みづくり」というキーワードを念頭に調査をしていました。

一般的にはドイツと日本の街並みの差の原因として、それぞれの国の建築に関する法律の差が引用されます。しかしここでは「法律」という観点からではなく、それぞれの国における住民の「意識」という観点から両者の違いを生み出す原因について考察しました。

ホストファミリー（息子・息子のガールフレンド・父の 3 人）に自宅周辺（入間市内）の画像とヴォ市の住宅街の画像を見せて、ドイツと日本の街並み（住宅街）の違いについて議論をしました。その議論を通してドイツと日本との街並みの主な違いとして、

①ドイツの地方都市の住宅は大抵、庭の周りを囲む形の生垣を設けていること

②ドイツの住宅は似たようなデザインの住宅が多いこと

が挙げられました。



①について、ヴォ市の住宅街をプログラム中に一通り見て回りましたが、確かにどの住宅も庭の周りに生垣を設けており、それは街並みに対してある種の統一感を与えていました。ホストの 3 人と話をする中で、「ドイツ人はプライバシーを非常に気にする」という意識の違いが①の原因となっているようにわかりました。日本では最近、住宅に設ける柵がほとんどの場合、背丈の低い格子状の柵となっています。ドイツと同様、日本の住宅も当然庭を持っていますし、そこでバーベキューをしたり遊んだりすることは日常的茶飯事です。それでも日本の住宅街では確かに

上述の柵が典型的となってしまうのです。金銭的な余裕や生垣の手入れにかかる手間などを考えると一概にそれだけが原因とはいいいがたいですが、少なくとも「プライバシー」に対してドイツ人のほうが日本人よりも気に掛けているという性格・意識の違いが、街並みの形成に影響を与えていると考えられます。



②について、ドイツ人にとっては自分自身の好みの色やデザインの住宅をつくるより、他の家との調和を考えて、統一感のある街並みを形成することそのことに対して誇りと使命感のようなものがあるようでした。日本であれば、隣にどんな家が建とうとも割と好きに設計事務所の案内などを頼りに、外壁の色や庭のづくり、柵などを選んでいきますがドイツでは、まずは周辺の住宅のことを念頭に置いてデザインしていくようです。

今回の派遣を通して、ドイツ人は1人1人が互いをそして自分自身を尊重しみんなで街をつくらしている、そういう文化が根付いているからこそ法律の枠を超えて、統一された景観のようなものが住宅街に形成されているのだな、と感じました。そして我々日本人もそのようなドイツ人の行政だけでなく住民1人1人の手でさらに良いものをつくりあげていく意識を見習うべきなのかもしれません。

学習の記録

テーマ：ドイツの難民の受け入れ体制について

氏 名：杉井 翔太

私は高校の地理の授業でヨーロッパの難民の受け入れ体制について学びました。そこでは、受け入れが追いついておらずヨーロッパの中でもドイツが多く受け入れをしているというくらいの浅はかなものでした。ですが、今回の企画を通して難民受け入れの現状を知ることができました。

今ヴォルフラーツハウゼン市では 360 人ほどの難民の方々を受け入れているそうです。ドイツで見たら、2012 年から 200 万人が亡命しているそうです。これは、ドイツの人口の 2%にあたるそうです。この数字を聞いて、私は多いと思いました。日本は平和で安全な生活をできていますが、これが普通ではないと改めて感じるすることができました。

ヴォルフラーツハウゼン市にくる難民の方々のほとんどがシリアやアフガニスタン、ナイジェリアだそうです。どの国も紛争が起こっています。

難民問題はいまや世界問題であり政治問題です。解決には時間が相当かかると思います。ですが、シリアやリビアで紛争が起こったらドイツから核兵器を輸出しているそうです。難民問題を止めたいはずなのに核兵器を売るのは矛盾が生じています。まず紛争を止めるためにも先進国ができることを行うべきだと思いました。シリアでは特に観光名所が多いですが、その観光名所も被害を受けているそうです。人と人の争いでそのようなものも被害を受けるのはとても悲しいです。



シリアから来た男性の話を聞くと、ドイツの法律がわからなくて不安であったり、ドイツ語がわからなかったり、滞在書を得るなど様々なことに苦労したそうです。ほかの方々もお子さんのことなどで苦労したことがあったそうです。ですが、ヴォルフラーツハウゼン市のヒゼンさんを

代表とする方々が難民の方々を支援しているそうです。

例えば、市民の着なくなった衣類を寄付

ドイツ語講座を開講

職業につくための訓練

裁判所からドイツの法律を教えてくれる方をお呼びするなど活発に難民支援を行っているようでした。ドイツ政府からは仕事についていない人に限り320ユーロの支援を受けられるそうです。ですが、仕事についている人には支給されないそうです。これを聞く限り決して裕福とはいえませんが、命以上に大事なものはありません。そのなかでも車を持っていたり、マンションに住んでいたたりするそうです。人は誰でも幸せになる権利があるとおもいます。そのためこういった支援をしていることは、とても素晴らしいことで素敵なことだと思います。

今回の話を聞いてさらに難民問題について興味を深めることができました。今後わたしにできる紛争地域への寄付や要らなくなった洋服の寄付、ごはんを食べ残さないなど世界にとっては小さいことかもしれないけど積極的にそのようなことをやっていきたいです。



難民支援施設で食べたシリアやアフガニスタン料理

学習の記録

テーマ：ドイツの教育制度について

氏 名：竹下 好

ドイツの教育制度は、日本とは大きく異なります。日本では初等教育及び中等教育の 12 年を修了してから高等教育が始まります。

しかし、ドイツでは 3 歳から 6 歳まで保育園や幼稚園で過ごした後、グルントシューレと呼ばれる基礎学校に入学し、4 年間初等教育を受けます。グルントシューレを修了した後は、子どもたちにとって最初の人生の分岐点がやってきます。子どもたちは、わずか 10 歳で自分の将来を考え出さなければならないのです。その選択肢は 3 つあり、1 つに基幹学校と呼ばれる 5 年制の学校で、職業訓練が主に行われます。

2 つ目は、実科学校という 6 年制の学校で、基幹学校とは異なり授業も行われています。

3 つ目は、ギムナジウムといって、主に大学進学を見据えた生徒が通う 8 年制の学校です。

私のホストファミリーのレナは、現在保育士になるために職業訓練をしていると話してくれました。私と 2 歳しか年が離れていないのに、将来就く職業がある程度決まっていることにとっても驚いたし、ホストマザーから職業訓練の学校へ進むドイツ人の割合が多いということを知り、強い衝撃を受けました。

また、私は将来教員になりたいと考えているので、ドイツではどのような過程を経て教員になるのか、質問をしました。

すると、ドイツで教員になるには、5・6 年必要で学ぶ内容もとても難しいと答えてくれました。日本とは異なり、自分が教えたいと思っている分野の勉強だけをするのではなく、全く関係のない他教科も学ばなければなりません。そのため、ドイツで教師になるのは日本よりもはるかに大変だと感じました。このことは、近年ドイツで深刻化している教師不足に影響を与えていると言われており、教育制度自体の改革が必要なのではという意見も出ているようです。

今回の事業を通して、ドイツの教育制度に関する重要な事実をたくさん知ることができ良かったです。私はドイツに来る前まで、日本の教育制度とドイツの教育制度は大して変わらないだろうと思っていました。しかし実際に調査してみると、日本とは異なる点が多く見つかり、ドイツに興味を持つこともできました。

学習の記録

テーマ：生活様式について

氏 名：晝間 望愛

7日間ホストファミリーのお家に泊まり、日本とは異なるところを発見出来ました。まず、1日目のヴォルフラーツハウゼン市に着いてすぐに歓迎パーティーがありました。そのとき、レストランで行われましたが、日本の和食店などでは前菜から飲み物があってそこから主菜、副菜、といくつかに分かれて出てきます。しかし、ドイツのほとんどのお店がまず、必ずドリンクを一回目の注文できめます。そして2回目の注文で自分の食べたい物を一品決めます。また、そのワンプレートの量が多く、日本で言う白米がじゃがいもでした。それは、フレンチフライであったりお団子のようにしたものなどいろいろな形で食べきれない程のりょうでした。また、食事に関しては毎回家族みんなで食べます。日本では仕事が長かったり、部活があったりして家族で食べられない事があります。そこも日本との違いだと感じました。

もう一つは、内陸国特有の生活習慣だと感じたことがあります。それは休みの時に湖に泳ぎに行くことで、日本ではあまりないことだとおもいました。また、湖がビーチのように砂浜でとても綺麗でした。また、それと同様に日曜日のホストファミリーと過ごす日に山登りに連れていってもらいました。ドイツでは日曜日に山登りに行くことが多いようで、実際私と歳の近かそうな女の子たちが複数できていました。日本は山国で多く山がありますが休みの日に山に行くことはあまりないなとかんじました。

二つ目に気になったことは土地の広さです。それに関連して家がとても大きくてとても広かったです。日本ではご近所さんとの家がすぐ近くにあると思いますが、ドイツは密集せずに広々しています。

また、家の中で靴を履いたままかと思いました。日本のように玄関があり靴からサンダルに履き替えて生活していました。

このようにドイツにも日本と異なることや、共通していることがたくさんみられました。7日間のホームステイでドイツの私生活について沢山のことをまなぶことができました。

訪問団報告書

「守りたい友好関係」

第 12 期訪問団リーダー 美和 優花

私は家に帰ると直ぐに、ヴォ市訪問中の素晴らしい経験を、写真を見せながら家族に話しました。写真は家族写真を撮るのが大好きなホストファーザーが USB にまとめプレゼントしてくれたもので、どの写真を見ても、その時の楽しさや、わくわくした気持ちが蘇ってきて、もう一度ドイツに戻りたいなど強く思いました。日本に帰ってから数日たった今でも、写真を見返しては本当に楽しすぎた10日間の思い出に浸ってしまいます。

【ホストファミリーとミュンヘンで】



【フレッドが連れていってくれた湖】



ヴォ市滞在中、私はとても9日間とは思えないほど本当に沢山のものを見て、体験して、感じることができました。今回が初めての海外で、不安なことばかりでしたが、沢山の思い出ができ、ヴォ市のことが大好きになったのは、現地で一緒に行動してくださった方々、そしてメラ一家の皆のおかげだと思います。ホストファーザーのフレッドはとても陽気でいつも笑顔でした。朝は必ず、“オハヨウゴザイマース！みわさーん！！”と笑顔で家族の輪に入れてくれたのがとても嬉しかったです。ホストマザーのクララは料理が本当に上手、2人で買い物に行ったりしながらヴォ市のことや、家族のことについて沢山教えてくれました。ホストシスターのツォーエは、とても可愛くてアクティブですぐに仲良くなれ、バスでの移動中などもツォーエの隣に座り、出来るだけたくさん話すようになりました。ツォーエは日本にとっても興味をもってくれていたもので、浴衣を着せてあげたり、日本語を教えたりしました。ひらがなとカタカナの違いや、アルファベットしかないパソコンのキーボードでどのように日本語を打っているのかなど、沢山の疑問が挙がりました。質問に答えていて、日本語は一文字違うだけで意味が大きく変わってきたり敬語があったりと、とても難しい言語なのだと感じました。しかし、説明する中で、漢字の形や持つ意味、敬語など日本

語にしかない美しさに改めて気づくこともできました。難民の方と交流した際も、名前を漢字に変えて記名してあげたら、とても喜ばれました。日本で生活していると当たり前のように感じている日本の文化を海外の方に褒めてもらえるのはとても誇らしかったです。

【難民のサイマさんと】



【お互いの伝統衣装で】



ヴォ市の方々は私が英語で自分の思っていることを上手く伝えられない時も、聞こう、理解しようとしてくれていました。その気持ちが強く伝わり、私自身も、もっと話したい。伝えたい。と思いました。それからは安心して積極的に話せ言葉の壁を越えて仲良くなることが出来ました。名前を覚えてもらえたり、連絡先を交換出来たりしたのは、とても嬉しかったです。心配をかけてしまうことも多くあったと思いますが、いつも笑顔で温かく接してくれたことに本当に感謝しています。

次に日本に派遣団が来た時には、ヴォ市の方達が私たちにしてくれたような、おもてなしをして感謝の気持ちを伝えたいと思います。個人でドイツ旅行をすることはできても、今回のように現地の方と一緒に行動し人の温かさに触れ、生活を共にすることができたことは本当に貴重な体験だと思います。入間市やヴォ市の市役所の方々や、ホストファミリー、全員で協力し活動する中で仲を深めることが出来た青少年団の皆、全ての人たちとの出会いに心から感謝しています。緑豊かで美しい町並み、文化や歴史があり、人が優しい、素晴らしいヴォ市と入間市が姉妹都市であることを、とても誇りに思います。この友好関係が未来に繋がっていくことを願っています。

訪問団報告書

「ヴォルフラーツハウゼン市での日々」

第 12 期訪問団サブリーダー 今井 菜月



ドイツで過ごした 9 日間は本当に幸せで、忘れられない素晴らしい経験になりました。

空港に降り立ち、出迎えてくれたヴォルフラーツハウゼンのみなさんに会った時のことを思い出してみると、とっさに英語が上手く出てこなくてこれからの滞在でドイツの人と上手くコミュニケーションがとれるのか少し不安になったことを覚えています。ヴォ市に着きいざホストファミリーと対面しても、言われたことの意味が分からなかったり何を話して良いのか分からなかったりして、これから上手くいくのかとても心配でした。

しかしそんな不安もファミリーと一緒に時間を過ごしていく中でいつの間にかなくなっていました。ホストファミリーは私のことを本当に暖かく迎えてくれ、たくさん話しかけてくれました。最初は緊張と英語への不安からなかなか自分から話しかけることのできなかった私ですが、ホームステイの後半には日本人の友達と話す時のような些細なことも話題にできるようになりました。とてもユーモアあふれる家族で、英語が分からないなりに冗談を言って一緒に笑えたときにはコミュニケーションがとれているのを特に実感できて本当に嬉しかったです。

ホストファミリー以外の一緒に行動していたドイツの人たちとも色々なことを話しました。日本のことを伝えたりドイツのことを教えてもらえたり、日本ではなかなかできない新鮮な経験ができました。ドイツの人たちはわたしの拙い英語を理解しようとしてくれたり、逆にむこうもがんばって英語で話そうとしてくれたりして嬉しかったです。もっとスムーズに話したい、大好きなこの人たちの普段使っている言葉を分かりたいという気持ちも次第に出てきて、英語やドイツ語を勉強したくなりました。

また、バイエルンの自然や街並みは本当に美しく、住みたいと思うほど気に入りました。ドイツの人は朝食を庭で食べたり散歩をしたり湖に出かけたり、美しい景色を積極的に楽しんでいるところも素敵だと思いました。

私はもともと人と関わるのがあまり得意な方ではなく、学校に留学生が来たときやカナダでホームステイをしたときなど、外国人と交流する機会があっても自分から積極的に話しかけることはできませんでした。しかし今回は少人数だったためか、自分でも驚くほど現地の人と話すことができました。国際交流の楽しさを知り、海外や語学への興味も湧きました。そして何よりドイツやヴォルフラーツハウゼンが大好きになりました。また絶対に行きたいと思います。このような機会を与え、サポートして下さった皆さん本当にありがとうございました！

訪問団報告書

「ドイツへの思い」

第 12 期訪問団員 阿部 柊吾



日本を出たことすらなかったが、いきなりドイツへ行くとなると、流石に不安を抑えきれなかった。それでも自分で決めたことだったので、しっかりと学んでこようと思った。

初日の緊張は言うまでもなく酷く、夜は殆ど眠れなかった。少しかじってきた程度のドイツ語では当然通じず、申し訳なさで心がいっぱいだった。次の日は大丈夫かな、と不安になりながらもベッドで丸まっていた。

三日目以降は慣れてきて、純粋に観光や会話を楽しむことができた。見応えのある素晴らしい景色、見たこともないご馳走、趣のある建物などなど、とても新鮮なものばかりだった。また、ホストファミリーの方々だけでなく、関わってくれたすべての方が、人当たりが良くて優しい。とても良い国だという印象が強く残った。



ノイシュバンシュタイン城にて

しかし、楽しい時間はすぐに終わってしまう。8 日間なんてとても短いし、ドイツについて学ぶには時間が足りなさすぎると感じた。中には帰りたくないと言う人もいた。

今回の訪問において、後悔がなかったわけではないが、忘れることのない思い出ができたし、しっかりとみんなに感謝の言葉を述べることで満足できた。次はドイツ語を勉強して、ちゃんと話せるようになったらまた訪れたいと思う。



帰国直前に行われた報告会



訪問団報告書

「ドイツでのホストファミリーとの時間」

第 12 期訪問団員 片山 百萌

今回、私は初めてヨーロッパに行きました。今までアメリカやニュージーランド、フィリピンなどの国には訪れた経験があり、それぞれの国を訪問する度に文化や食生活といった違いに圧倒されることがありました。そんな中、ドイツを訪れるにあたり様々な期待や興味を持ちました。ドイツでは多くのプログラムが組まれており、自分たちで体験し肌身で感じられることが多く、想像以上の経験をすることができました。ホストファミリーを始め、ヴォ市の職員の皆様、入間市の国際交流協会の皆様、入間市市役所の職員、一緒に参加したメンバー、家族には感謝の心でいっぱいです。本当にありがとうございました。

ドイツでの滞在の中、最も親交を深める話し合うことができたのがホストファミリーでした。娘のルディアさんは毎日一緒にプログラムに参加してくれて家にいない時間でも一緒に過ごすことができました。Host mother は生物学者であり学校の先生をしています。料理がとても上手で手作りのケーキは日本では食べたことがない味でしたが、本当に美味しくて恋しいです。Host father は何にでも興味を示し、陽気な方でした。以前日本に旅行に来たときの話しなどを聞き、日本に住んでいる私より日本のことに詳しく、日本で旅行をした方がよい場所などを教えてくださいました。



「休日にホストファミリーとイザール川で」

日曜日はホストファミリーと過ごす休日であり、一緒に山にハイキングをして滝の前でお昼ご飯を食べました。ドイツで休日に山へハイキングに行くことは一般的な遊び方だと知りました。冬はスキーに行くそうです。ヴォ市はオーストリアに近いため、国境をまたいで登山やスキーを楽しむことも多いです。ハイキングに行くことになり、ホストファミリーから目的地まで1時間半で登れると聞いたのでスニーカーがあれば大丈夫かと思っていたら、そんなことはなく本格的なトレッキングシューズが必要でした。靴はホストの祖母から借りました。川を渡ることがあり、その際にトレッキングシューズだと靴の中が濡れなれずに済み非常に便利でした。Host mother が生物学者であり、host daughter が獣医医療技師であったこともあり動物や植物にとっても詳しくかったです。ハイキングをしながら、たくさんの植物や虫に

ついて教えて頂きました。私は虫が本当に驚くほど苦手だったのですが、ホストファミリーが好きだったので少し虫に興味を持つことができるようになりました。

ホストファミリーと食べる夕食はほとんどが庭で行われました。ドイツの8月は日の入りがとても遅く20時30分頃までは明るかったです。19時頃に庭で夕食を食べていました。私は今まで夕食を庭で食べたことがなかったので新鮮な気持ちでした。気温も暑すぎず25℃前後で過ごしやすく家にエアコンはありませんでした。夕食後もまだ明るかったため、川に散歩に行くことや、アイスを買って祖母の家に行き一緒に食べるなど夜が長く充実した時間を過ごすことができました。



「ホストの家にいるペット」

上記のようにヴォ市が用意して下さったプログラムに加えホストファミリーと一緒に過ごした時間により毎日充実した日々を送ることができました。不慣れな英語に関わらず、私が興味を示すと何にでも真摯に答えてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。



「休日のハイキング」



山岳射撃協会の練習場にて

訪問団報告書

「多くの出会い～知識と文化と交流と～」

第 12 期訪問団員 清水 俊祐

今回の派遣は、2 年前に大学のプログラムで訪れて以来の海外&ドイツ渡航であり初めてのホームステイだったので、不安よりも寧ろ期待のほうが大きかったです。特に今回の派遣ではロマンティック街道に代表される豊かな自然とお洒落な建築で有名なドイツ南部バイエルン地方の都市に滞在することができるということで、その期待はひとしおでした。

いざプログラムが始まってみると、私の期待を優に超える自然と景観と建築とそしてそれらを一秒も余すことなく伝えようと組まれた充実のスケジュールが待っていました。ロココ様式の最高ヴィースの巡礼教会に始まり、ノイシュバンシュタイン城、Badtölz、Schliersee、ミュンヘン観光、、、そして何といつてもフリーデーの日曜日、ホストに連れて行ってもらったミュンヘンのオリンピックスタジアムは自分の大好きな建築構造物の 1 つでした。この機会に連れて行ってもらえて、本当に貴重な体験をすることができました。



建築以外で特にこの派遣中私にとって印象深かったのは、ホストをはじめとした色々な人とたくさんの交流ができたことです。

私のホストファミリーTaepfer 家族は息子のバスティ、そのガールフレンドのジェニー、そして兄弟のアレックス、フィリップ、みんなが私と同年代で、お互いの学校事情、やっていることや興味のあることについて話したり、日本のゲーム(Nintendo Switch がホストの家にあった)と一緒にやったり、お酒を飲んだり、毎日話題が尽きませんでした。また、父親のアクスには朝食選びのついでにベーカリーへ連れて行ってもらったり、バイエルンについての様々な話をしてもらったりと、ドイツの生活について様々な教えを受けました。プログラム中にバスティの誕生日が重なっていたこともあり、ドイツ流バースデーパーティーも体験することができました。25 人近い友人が家に来て、夜日付が変わり誕生日が来るまでみんなでバーベキューしたりビールを片手に話をしたりしている様子は、日本では味わえない

体験でした。(それともこれって日本でもよくある?)

またホストファミリーを超えて、日中のプログラムに随行してくれたゾナーとクリスにもすごく世話になりました。彼らは来春日本に来る予定があってとても日本のことに興味がありました。そのため、日本のことについて話したり、逆に若者目線のバイエルン事情について話を聞いたり、これまた貴重な体験でした。来春、彼らに日本を案内する予定もできて、プログラムを超えた友好関係を築けたことを嬉しく思います。それから、同じく随行してくれた 10 歳のマキシにはドイツ語の楽しさを教えてもらいました。まだ小学生なのであまり英語はうまくなく、会話にはドイツ語が必要でした。自分が大学で学んだ少しのドイツ語を頑張って理解しようとしてくれて、お互いの話が通じた時はドイツ語を今まで学習してきた良かったと心から思えました。



そして、日本から一緒に渡航した 9 人には一番の感謝を伝えたいです。初めは高校生が 5 人と聞いて上手くやっていけるのか、青少年最高齢としてどう責任感ある行動をとれば良いのか不安がありましたが、いざプログラムが始まってみると、寧ろ私自身が高校生たちのやる気や熱意に感化されるくらいでした。

たった 1 週間の派遣でしたが、そこで得た様々な感情・経験が今この瞬間も自分の中に息づいているのを感じます。どういう形であれ必ずや、この経験を今後の人生に活かしていきたいと考えています。

訪問団報告書

「スギ☆ショウ ～17の夏～」

第12期訪問団員 杉井 翔太

海外に旅行や住んだことはあったけれど、今回はホームステイということでとても緊張していました。しかし、ヴォルフラーツハウゼンの方は温かい笑顔で歓迎してくれました。私のドイツのイメージはサッカーが上手くて、料理がおいしいということぐらいでした。この派遣で深く知ることができました。

到着した次の日から本格的にプログラムが始まりました。多くの教会に行きました。ミュンヘンなどの大都市は例外がありますが、ヴォルフラーツハウゼン市などでは教会が一番高い建物でした。それくらい教会が大切にされているのだと思いました。中身も天井に絵が描いてあったり、繊細な彫刻がされていたり、白を基調としているなかに金がまじっていたりととても美しかったです。建物の面でいったら街並みもきれいでした。日本とは違い、統一感があり建物の色も美しく感じました。しかし、このようなことから日本の文明が完全に遅れているのだとも思いました。構造や素材などがドイツのほうが圧倒的に進んでいました。日本のお寺はほとんどが木材からできていますが、ドイツの教会はもっと丈夫な素材かできていました。建物の面で言ったら、ドイツのマクドナルドやスターバックスは街並みを崩さないように看板が派手な色でなかったり、美しい建物の一画にあったりなど日本でいう京都に近いものを感じました。

このようなことから、ドイツは建築に関心が強いのだとおもいました。日本も今後統一感のあるような街ができていってほしいです。



私のホストファミリーの話をする、家族構成はお父さんのマティアスと娘さんのダニエラの2人でした。娘さんはすでに働いていて今はヴォルフラーツハウゼン市に住んでいませんでした。なのでほとんどの日をお父さんのマティアスと過ごしました。見た目からとてもやさしい雰囲気がでていて緊張して

いる私をほぐそうと積極的に声をかけてくれました。マティアスは趣味がたくさんあり、滞在中わたしも一緒に楽しむことができました。例えば、ツーリングやダーツや映画鑑賞、空気銃など多すぎて全部あげることはできません。ダーツでマティアスに勝つことができたときはとても嬉しかったです。ホストファミリーと過ごす日にはツーリングもしました。いままでバイクに乗ったことがなくて少し緊張していましたがとても楽しかったです。マティアスの車もバイクも日本製の TOYOTA と HONDA で驚きました。外車だから高いのかと思っていたけど BENZ などの車のほうが高いそうです。でもマティアスは日本車が大好きと言ってくれてなぜか嬉しかったです。娘さんのダニエラと話す機会は多くはなかったけどとても親切でした。ホストファミリーと過ごす日にはアリアンツアリーナに連れて行ってくれて、バイエルン・ミュンヘンについて教えてくれました。お別れのときにはたくさんプレゼントをくれました。

このヴォルフラーツハウゼン市で過ごした日々は私にとってかけがえのないものになりました。今後友達にもここで過ごしたことを伝えていき入間市とヴォルフラーツハウゼン市の関係が続けばいいなと思います。また、自分の英語力とドイツ語を話せるようになってまたマティアスの家に訪れたいと思います。

また、今回企画して下さった入間市役所とヴォルフラーツハウゼン市の方々様々な方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。



ホストファミリーのダニエラさんとマティアスさん

訪問団報告書

「充実した一週間」

第 12 期訪問団員 竹下 好



今回の派遣事業を通して私は、数え切れないほどたくさんの体験をし、とても多くのことを学びました。そして、素晴らしいホストファミリーにも出会うことができました。私は今まで海外に行ったことがなく、外国の方とどのようにコミュニケーションを取ればよいか、自分の英語がどれくらい通じるのかとても不安でした。しかし、ヴォルフラーツハウゼン市の方々が私たちを優しく、笑顔で迎え入れてくださったので、そんな不安は気になりました。

また、ホストファミリーに英語でうまく自分の気持ちを伝えることが出来なかった私を、温かく受け入れ、たくさん接してくれたことが嬉しかったです。私のホストファミリーになってくれたレナ、カリン、ヨゼフには本当に感謝しています。レナは、私と同じで英語が苦手であるにも関わらず、たくさん話しかけてくれたり、一緒にドイツのゲームで遊んだりしてくれました。カリンは、とても明るく気さくで毎日私に元気をくれ、ヨゼフはいつも冗談を言って私を笑わせてくれたりしました。

ホストファミリーと過ごす一日では、アリアンツアリーナやオリンピアパークに連れて行ってもらいました。サッカーの本場であるドイツのスタジアムを訪ねたり、1972 年のミュンヘンオリンピックの会場となった地に足を運ぶことができ良かったです。

夕食は、家の庭でバーベキューを楽しみ、色々な種類のソーセージやパンを食べさせてもらい、食べることが大好きな私は本当にうれしかったです。どれも美味しかったです。特に好きなのはブラートヴルスト、シュネッケンでした。ホストファミリーと過ごす時間が増えていくにつれ、何気ない会話や生活がかけがえのない宝物となっていきました。本当の家族のように接してくれる彼らと離れたくないと強く思いました。別れの時は本当に寂しく、ホストファミリーと抱き合いながら泣いてしまいました。今でも思い出すと涙が出そうになります。みんな本当に優しく、温かい人たちでした。数年後、また再び会うことができるようにこれからは、今まで以上に英語の勉強に力を入れたいと思いました。また、再会できた時にホストファミリーにびっくりされるくらい、会話ができるようになることを目標に頑張っていこうと思います。

今回の事業を経て、私は「本当の人のやさしさ」というものに触れることができました。また、言葉は違っても心は通じ合えるということも知ることができた、充実した一週間でした。

このような貴重な体験をすることができたのは、入間市やヴォルフラーツハウゼン市の方々、家族のおかげです。本当に感謝しています。ありがとうございました。Danke!!

訪問団報告書

「たくさんの初めてと第二の家族」

第12期訪問団員 晝間 望愛

私はこのドイツの姉妹都市交流が初めての海外訪問でした。はじめドイツに行く前は、とても緊張してとても不安でした。しかし、ドイツに着いてから周りの人に優しくしてもらって楽しく沢山のことを学ぶことができました。

私の学習テーマは「生活様式を学ぶ」でした。7日間の間で訪問した所で文化や歴史、習慣について学ぶこともありました。けど、ホストファミリーと過ごす時間が1番多くのことを学び、家族で朝からどのようにして過ごすのか、食事のこと、など色々日本との違いを見つけました。例えば、食事は主食がじゃがいもや、パンだったり。家の中に3つシャワー室があったり、家の土地が広かったり、休みの日には家族で山に行ってランチしたり、湖に行って泳いだり日本では体験できないことでした。私にとってドイツはすべて大きく感じるものばかりでした。

家の大きさ、ご飯の量、周りにいる人の身長、全て大きかったです。

また、私は7年前に入間市にホームステイにきたお兄さんにあうことができました。再会出来てとても嬉しかったです。彼も私の家族ですが、私も今回の訪問で新しい家族ができました。言語が違い会話するのも大変でしたが、私の片言の英語を一生懸命に聞いて沢山助けてもらいました。最終日にホストマザーにいつでも帰ってきてと言われて、私は入間市とヴォ市の姉妹都市交流はこのようにつづいていくのだと感じました。

ホームステイで生活様式を学ぶことも出来ましたが、それ以上に素敵な人たちと出会えて良かったです。

次は、入間市に訪問団が来た時に受け入れをして、姉妹都市交流を続けていきたいです。



シュリール湖の遊覧船にて
この直後大雨が降り、天候が読めない日でした



ミュンヘン市内にて

訪問団報告書

「あなたの話を聞いていると、もっと入間、日本に行きたくなった」

訪問団随行者(入間市自治文化課) 村山 泰貴

入間市を代表して派遣される訪問団に、心構えを身に付けてもらうため、事前研修では派遣に向けての準備やホストファミリーと過ごす上で注意すべきこと等を先輩派遣団員から学ぶ機会を設けています。

前回の平成 29 年度派遣団、第 11 期生より佐藤達哉さん、叶陽菜さん、川合優香さん、古谷晶さんに協力をいただき事前研修でお話しをしてもらいました。(近況として叶さんは 8 月から留学、佐藤さんは目標に向け就職活動中、川合さん、古谷さんは就職活動を終えた報告をしてくれました。また、ミュンヘンでは、吉川尚孝さんと合流、水村光希さんとはヴォ市滞在が一日重複するなど、日ごろの活躍でお忙しい中、ご協力ありがとうございました。)

第 11 期訪問団にヴォ市訪問後、どのような変化があったことなどを聞いている中で、古谷さんの話が印象に残りこの報告書に特別篇として寄稿をお願いしました。

古谷さんの参加動機は、「母の勧め」と「自分の知見を広げるため」。これは特別なものではなく、一般的な動機と言えます。そのような中、彼女はヴォ市のホストファミリーから「あなたの話を聞いていると、もっと入間、日本に行きたくなった」と言われ、自分が派遣団として訪問した意義を感じたそうです。この経験から将来を描き、目標が確かなものになっていくことに繋がって行ったそうです。

市役所の事業は、費用対効果を意識しながら、お金に換えられない価値を生みだしていなくてはなりません。姉妹都市交流事業については、その成果は何であるのか。言葉で表現することの難しさを感じています。

その一例として、「姉妹都市交流事業はホームステイ等を通じて異なる文化を体験、理解し、お互いの違いを認め合うことができた…」という模範の例文となってしまうがちです。

「あなたの話を聞いていると、もっと入間、日本に行きたくなった」。派遣された側と受入れした側のお互いの気持ちが伝わる表現で、事業を企画運営した側は、実施して良かった…、次も実施したくなる…と勇気をもらい、最大級の評価をしてくださったと感じました。

国際交流担当は、異文化への理解を深める機会を設けるのが仕事です。中・高・大学生には、教科書では教わることのできない素晴らしい体験が待っています。異文化体験ができる姉妹都市交流事業に積極的に参加をしていただきたいと思います。

「あなたの話を聞いていると、もっと入間、日本に行きたくなった」。と、異文化を理解した人材が入間市から多く育つことを祈念し結びとします。



ポーズを決めるペーターさん
(レーゲンスベルクにて)



ヴォ市の H29 万燈まつり訪問団と！



ヴォ市の友好日本庭園にて

特別寄稿

平成 29 年度(第 11 期)ヴォ市青少年派遣団員 古谷 晶



派遣時の古谷さん

ヴォ市での経験は私にとって人生を変えてくれるきっかけを与えてくれた特別な一週間でした。当時母の勧めと自分の知見を広げるために申し込んだ派遣団でしたが、数多くの出会いや経験を通じて将来について深く考えることが出来ました。

現地では、難民の方や市役所の方、ホストファミリーなど数多くのドイツ人と話す機会がありました。私は彼らと出会う度に国際交流の楽しさを味わいました。一大学生の私でも、日本や入間のことを話したり、ドイツ文化を積極的に体験することで、ヴォ市との交流を深めることができ、細やかながら相互関係に貢献できる喜びを味わいました。中でも、ホストファミリーとの会話では「あなたの話を聞いていると、もっと入間、日本に行きたくなった」と言われた時は自分が派遣団として行った意義を感じることが出来ました。

これらの経験がきっかけで、世界と日本を繋いでいけるような客室乗務員という仕事に興味を抱き始めました。就職活動中も、ヴォ市滞在中のこれらの経験や、ホストファミリーとしてヴォ市からの派遣団を受け入れたこと、そこで感じた外国人との関わり方や文化の違いを知る楽しさなどをお話しました。

これからはヴォ市での経験を忘れずに常に感謝を持ち続け、客室乗務員として尽力し、入間市やヴォ市を始めとする方々に恩返しできるよう精進致します。

そして、これから派遣団としてヴォ市へと旅立つ方々は、きっと人生の価値観が変わっていくような体験が沢山できると思います。一瞬一瞬を大切に学び得て、素敵な思い出を沢山作ってください。皆様の安全とかけがえのない一週間になること、願っております。

2019/07/29 寄稿



古谷さんのホストファミリー ハイフリヒさん



帰国した 8/9 にハイフリヒさんより預かったおみやげを渡す

なつかしい～こんなことありました

8月1日(木)



8月2日(金)





8月3日(土)



8月5日(月)



8月6日(火)



8月7日(水)



8月8日(木)

